

3 震生湖 100 年のあゆみ

誕生～戦前までの震生湖



大震災埋没者供養塔

震生湖は、大正 12 年 (1923) 9 月 1 日に発生した関東大地震により市木沢南斜面が地すべりを起こし、その土砂により沢が堰き止められ誕生しました。地すべりが発生した当初、地元では大陥没による地形変動から「陥没地」と呼んでおり、徐々に水が溜まってきた頃に「陥没池」と呼んでいました。大正 13 年 (1924) 頃に地元有志が地域資源として活用しようと「震生湖」と命名しました。

周辺では、他にも土砂崩れが発生しており、震生湖北西に位置する峰坂においても山道が崩れ、南秦野尋常高等小学校の 11 歳と 13 歳の少女が下校中に遭難し、数日間の捜索が行われましたが発見されませんでした。坂上の台地上には、南秦野村有志により「大震災埋没者供養塔」が大正 13 年 (1924) 10 月に建立されました。

大正 14 年 (1925) には、陸軍近衛師団演習に参列したかんののみやはるひと閑院宮春仁親王が震生湖を訪れています。親王は、関東大地震により妹であるひろこ寛子女王を小田原の別邸で亡くしており、峰坂で亡くなった少女に深く同情したと思われれます。その後、地元有志により来訪を記念した松が供養塔の脇に植えられましたが、昭和 35 年 (1960) に枯死し、現在は記念碑だけが残っています。



閑院宮春仁親王
(閑院純仁 1967『日本史上の秘録』
日本民主協会)

大正 15 年 (1926) 1 月 19 日、2 月 26 日の横濱貿易新報に、陥没池 (震生湖) に多数の魚が発生したので、地



寺田寅彦
(安倍能成ほか編 1936『寺田寅彦
全集』第 3 巻岩波書店)

元有志は「供楽会」を組織し、魚釣りを催すという記事が掲載されています。

専門家による調査は、湖の形成直後から実施されており、東京帝国大学地震研究所の寺田寅彦は昭和 5 年 (1930) 9 月 7 日と 12 日に来訪しています。初日は写真の撮影に留まり、12 日は同所の若手であるみやべなおみ宮部直巳、つやひろみち津屋弘達を伴い測量調査を実施しました。その成果は、昭和 7 年 (1932) に刊行された『東京大學地震研究所彙報』第 10 号第 1 冊に「秦野に於ける山崩」と題して報告されています。

また、寺田は地震といった地球物理学を専門とする物理学者でしたが、夏目漱石を師とする俳人でもあり、漱石の『吾輩は猫である』の登場人物の一人のモデルにもなっています。

寺田は震生湖を訪れた際に漱石同門の松根豊次郎（東洋城）に出した絵葉書に「そばおかぼ陸稲 丸い山越す 秋の風」を詠んでいます。また、俳句雑誌『渋柿』には「山裂けて 成しける池や 水すまし」ほすすき「穂芒や 地震に裂けたる 山の腹」ないの2句が詠まれています。

その後、南秦野在郷軍人会により実弾射撃場が計画され、土地所有者の協力により現在ソーラーパネルが設置されている堰止地の範囲に昭和3年（1928）に完成しました。南秦野村や伊勢原町の在郷軍人会主催の射撃訓練場として利用されてきました。しかし、戦争が厳しくなると戦争に召集される人が多くなり、実弾を入手することも困難になったことから射撃場は使われなくなりました。



震生湖実弾射撃場の様子
『秦野高等女学校卒業写真帖』

また、戦前の横濱貿易新報の記事をみると、震生湖では入水による事件が起きていますが、昭和10年（1935）6月30日には南秦野村の加藤高次郎によって一万尾のヒゴイが放流され、昭和15年（1940）には東秦野村の傷兵療養所の兵士が釣り大会をするなど、釣場としても利用されていました。

戦後～現在の震生湖

昭和30年（1955）9月1日に秦野市観光協会が震生湖湖畔に寺田寅彦が詠んだ「山裂けて 成しける池や 水すまし」の句碑を建設し、除幕式を行いました。この句碑は寺田寅彦の友人で漱石門下の学習院大学教授の小宮豊隆が揮毫したものです。



寺田寅彦の句碑
(昭和30年(1955))

また、戦後においてもワカサギといった釣りの名所として賑わっていたほか、秦野市観光協会では震生湖を「アヒルの湖」にしようと取組が行われました。

一方、各学校にプールがなかったため、遊泳者も多く、水泳大会も行われましたが、水難事故が多発し、昭和36年（1961）に水泳禁止となりました。

現在の震生湖に鎮座する福寿弁財天は、昭和49年（1974）に本市名古屋出身の彫刻家、井上久照が製作したのですが、弁財天建設当初は、栃木県真岡市の

長蓮寺から運ばれた木造坐像で、観光開発にひと役買いと期待されましたが、所有権をめぐる問題などから元のお寺に戻った経緯があります。



長蓮寺から運ばれた弁財天

昭和 44 年（1969）には市内の弘法山と共に大規模な観光開発計画が立案され、財団法人日本観光協会が実施した調査結果に基づき、『秦野市弘法山・震生湖地域観光調査報告書』が作成されました。この報告書では、水禽類を中心とした水上動物園の性格を持つ都市公園とする計画として位置付けられましたが、実現には至りませ

んでした。また、昭和 61 年（1986）に策定された「秦野アメニティ・タウン計画」においても震生湖水公園整備として位置付けられ、市民団体よって水質浄化の取組が平成の初めに行われました。そして、現在も震生湖周辺では、清掃などの活動が市民団体によって行われています。



震生湖水公園整備計画
（「秦野アメニティ・タウン計画」）

一方、学術面では、昭和 41 年（1966）に東海大学海洋学研究会により、地質、測量・計測、生物の分野から総合的な調査が実施され、昭和 61 年（1986）には市内の学校教員を主体とした秦野自然研究会による調査が行われ、『秦野市史自然調査報告書 3 秦野の自然Ⅲ -震生湖の自然-』として発行されています。

平成 29 年（2017）には「1923 年関東地震による震生湖地すべりの地質構造とその意義」が 4 人の研究者の連盟で『京都大学防災研究所年報』第 60 号 B にて発表され、震生湖が誕生した要因について、ボーリング調査の結果から地表 17m 程の深さにある約 6 万 6 千年前に堆積した東京軽石層にすべり面があり、その上部の火山灰土と火砕流堆積物が滑ったものであるとしています。

震生湖を詠んだ寺田寅彦の句は、全て石碑となっており、震生湖の湖畔のほかに、本町小学校通用門付近に平成 7 年（1995）2 月に平成 6 年度卒業生によって「穂芒や」の石碑が、大震災埋没者供養塔の地に令和 4 年（2022）9 月に南はだの村七福神と鶴亀めぐりの会よって「そば陸稲」の石碑が建立されています。

令和 3 年（2021）3 月 26 日には国



寺田寅彦の句碑

（左：本町小学校所在 右：大震災埋没者供養塔近く所在）

登録記念物に登録され、秦野市教育委員会によって令和 4 年（2022）3 月に文化財としての震生湖を解説した看板が設置されます。

令和 5 年（2023）9 月に 100 年が経過しますが、これからの 100 年は観光地という側面だけではなく、震災遺構という文化財としても未来に引き継がれるでしょう。

震生湖年表

和暦	西暦	月日	できごと	備考
大正 12	1923	9 月 1 日	関東大地震により山崩れ発生	
14	1925	11 月 14 日	閑院宮春仁親王が来訪、松を丸山に植樹して「台覧の松」とする	閑院宮春仁親王は、震災時小田原別邸で妹の寛子女王を亡くしている
15	1926	2 月 28 日	地元で供樂会を結成、釣魚会を開催	
昭和 3	1938		実弾射撃場完成	
4	1939	7 月 1 日	『横濱貿易新報』紙上に「震生湖」の呼称初出	供樂会が魚の放流と釣魚会を継続してきた事も記載されている
5	1930	9 月 7 日	寺田寅彦来訪	
		9 月 12 日	寺田寅彦、宮部直巳、津屋弘遠、調査に来訪	
8	1933	3 月 21 日	南秦野村在郷軍人分会、湖畔で実弾射撃	
9	1934	3 月 10 日	伊勢原町在郷軍人分会、湖畔で実弾射撃	
10	1935	7 月	加藤高次郎、緋鯉一万匹を放流	
15	1940	5 月 8 日	傷兵療養所（現神奈川病院）の傷兵による釣魚を実施	
30	1955	9 月 1 日	寺田寅彦歌碑建設披露式挙行	当日雨のため、湖畔での除幕式を中央公民館での式典に変更
31	1956	5 月末	貸しボート 2 隻、バンガロー 1 棟設置	ボートは 30 分 50 円、バンガローは一泊 250 円（秦野市広報第 10 号より）
		8 月 19 日	地元有志が釣り堀経営開始。釣魚大会。	場所は「湖畔亭」付近。コイ、フナなど一万尾放流
32	1957	5 月	アヒル一羽がいが寄贈される	
		5 月 21 日	震生湖畔に「湖畔亭」新設	上記「湖畔亭」とは場所が違う
		6 月	東屋 1 棟、バンガロー 5 棟、ボート 7 隻に増加	
		7 月 14 日	水泳、釣魚大会開催	この頃アヒル十数羽に殖える
33	1958	3 月 20 日	市観光係ニジマス千尾を放流	
35	1960	2 月 26 日	市観光課、ワカサギ卵七万粒放流	
		6 月	台覧の松、枯死	観光地化により、周辺が荒らされたりゴミが増えるなどしている
36	1961	6 月 11 日	弁天堂起工式	
		7 月 17 日	会社員の水死により全面水泳禁止	
		8 月 1 日	大秦野発震生湖経由比奈窪行バス路線開通	
		8 月 11 日	栃木県真岡市の長蓮寺から弁財天到着	同弁財天は 63 年に真岡市指定文化財に
		12 月 2 日	弁天堂落成式及び弁財天遷座式挙行	
37	1962	3 月	弁天堂住職、家族の都合により栃木に帰る	以降、弁天堂閉鎖され、周辺が荒れる
38	1963		老朽化した木橋が撤去される	
40	1965	5 月	ハイキングコースに指導標、現地に説明板設置	この頃から観光協会がハイキングコースを PR
42	1967	2 月	東海大学海洋学研究会第一回底質採集調査	
		5 月	東海大学海洋学研究会第二回底質採集調査	
48	1973	12 月	秦野市観光協会がコイ、フナなど一万尾放流	
49	1974	11 月 4 日	弁財天を新たに製作、鎮座	現在の弁財天。製作は名古屋出身の彫刻家井上久照
60	1985		クローバ会、電柱などの廃材で野外ステージを建設	
62	1987		第一回震生湖まつり開催	
平成 3	1991		かながわの探鳥地 50 選に選ばれる	
7	1995	2 月 28 日	寺田寅彦句碑（穂芭や）が本町小学校に建てられる	平成 6 年度卒業生による
令和 3	2021	3 月 26 日	国登録記念物に登録される	
4	2022	3 月	国登録記念物としての解説看板設置	
		9 月 7 日	寺田寅彦句碑（そば陸稲）が大震災埋没者供養塔の脇に建てられる	南はだの村七福神と鶴亀めぐりの会創立 10 周年記念事業